

CISJ「専門医試験直前説明会」

日時：令和3年12月4日(土)
場所：フクラシア丸の内オアゾ



池田 岳史(長野県)



去る12月4日(土)、フクラシア丸の内オアゾにて2021年度の専門医試験直前説明会が行われた。

2022年3月の専門医試験・指導医試験の受験予定の先生と2022年1月のケースプレゼンテーション試験の受験予定の先生を対象とし、見学者の先生も含めて16名の先生が参加となった。

当会会長の田中 譲治先生、専務の笹谷 伸之先生も出席される中、専門医試験対策委員会委員長の小倉 隆一先生、佐久間 栄先生が講師を務め、過去の試験の状況などを説明していただき、質問にお答えしていただいたり、筆記試験の取り組み方を指導していただいた。

参加された先生方からは多くの質問が飛び交い、ディスカッションも白熱し、およそ3時間の説明会はあっという間に過ぎてしまった。

筆者も今年度の専門医試験を受験予定であり、参加していたのだが、説明を聞けば聞くほど不安な気持ちが大きくなっていくのがわかった。まずプレゼンテーションからの口頭試問。自分の記憶、インプラント学に対する知識がいかに不足しているかが露呈し

た。追い討ちをかけるように筆記試験。小論文など大学入試以来書いていない。

むしろ生活のほぼ全てをPCに頼りきりできており、長期間にわたり筆記用具というものを触っていない。そう、漢字が書けないのである。英語が喋れないなどと言っている場合ではない。筆者の場合、母国語の読み書きすらままならないのだ。受験以前の問題で義務教育を受けた日本人と胸を張っていいか甚だ疑問である。

最もプレッシャーとなったのが、当会の先生方の試験合格率である。ここ数年は受験者全員合格が続いている。専門医資格を持つ先生方への畏敬の念が止まないとともにモチベーションも大きく向上したことは言うまでもない。

試験まであと3ヶ月、やることは山積みであるが、ひとつひとつできることを行い、万全の体制で試験を迎えたいものである。

最後に、朝早くからご指導いただいた専門医試験対策委員会の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。